

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.92 2013年4月号

現在はスポーツをしない人でも、学校に通っていた頃の体育の授業などでは、多くの方が、何人かのチームでやるスポーツを経験していると思います。そのとき、みなさんはどのようなポジションでしたか？

野球であれば「4番でピッチャー」はチームの中心選手で多くの方があこがれるポジションでしょうし、サッカーであればキーパーやディフェンダーよりもフォワードやミッドフィルダーのような点をとるポジションのほうが目立つし、やはり多くの方があこがれるポジションだと思います。それでは、みんながみんな、4番でピッチャーやフォワード、ミッドフィルダーになりたいと言ったら、チームは成り立つでしょうか？

各自が持っている能力や得意分野によってそれぞれに役割がふられるのは何もスポーツに限ったことではなく、仕事の面でも同じことです。1人でやる個人事業やごく零細な会社であれば、社長自らなんでもこなさなくてはなりません。ある程度の人数がいる会社であれば、それぞれに割り振られた役割があるはず。営業で能力を発揮する人もいれば、事務作業や製造作業などで能力を発揮する人もいます。営業で仕事をとってくる人は会社の売上を直接増やしていますので、一見、会社内で事務作業などを行っている人より会社に貢献しているように見えるかもしれませんが、結局、とってきた仕事をこなすことができなければ事業の継続ができませんので、そこには、どちらが偉くてどちらがそうではないという上下の関係は本来無いはず。これは、経営者と従業員との関係でも言えることだと思います。

社長が1人でなんでもこなしていた会社が成長し従業員が増えてくると、それまでは必要なかった組織の運営、すなわち「経営」という仕事が必要となってきます。オーケストラに指揮者が必要なように、もしも会社に経営者がいなかったらその会社はたちまちまとまりがなくなって、生き残っていくことができなくなるかもしれません。一方、実務をこなす従業員が存在せず、経営者しかいない会社が成り立たないことは、あえて言うまでもありません。

私たちはこの社会の中で与えられた役割というものがあって、それを一生懸命こなすことこそが大切だと思うのですが、みなさんはどう思われますか？

